

神戸市環境保健研究所

概 要 紹 介

1. 研究所の組織・業務・機能

当研究所は、事務係、企画情報部、微生物部、食品化学部、環境化学部の4部、1係体制で、全職員45名とこじんまりとした組織である。

(1) 事務係

事務係は、一般的な庶務事務の他、予算・決算を掌理している。特に、当研究所は、行政検査の他に手数料を定めて、市民からの一般依頼を受け付けているため、現金の収納も大切な業務である。

(2) 企画情報部

企画情報部は、各部から応援を受けながら以下の業務をこなしている。

- 感染症発生動向調査
- 信頼性確保業務
- 試験、検査、調査、研究等の企画、連絡調整
- 研修・技術指導
- 広報・所報、研究テーマ集

(3) 微生物部

微生物部は、以下の3部門について検査・研究・研修を実施している。

- 細菌部門
(臨床細菌、院内感染、食品・環境細菌、抗酸菌)
- ウイルス部門
(血清診断、臨床ウイルス、ウイルス感染症サーベイランス)
- 衛生動物部門
(寄生虫、衛生害虫、異物)

(4) 食品化学部

食品化学部は、主として食品に関連する調査・研究・研修を担当している。

- 食品衛生法に基づく食品中の添加物、残留農薬、動物用医薬品、カビ毒、フグ毒、遺伝子組み換え食品、アレルギー物質を含む食品等
- 器具・容器包装の規格検査

(5) 環境化学部

環境化学部は、行政依頼検査の他、一般依頼検査も積極的に行っている。

- 飲料水、プール水、浴場水
- 工場排水
- 公共用水域（海域）
- ゴルフ場使用農薬
- 地下水調査
- 大気環境基礎調査
- 有害大気汚染物質
- 二酸化炭素連続モニタリング

2. 具体的な事例

(1) 広報活動

広報活動として特筆すべきは、ホームページの作成・運営である。予算の制約から職員が管理しているが、徐々にコンテンツが充実してきて、ヒット数も増加している。(http://www.city.kobe.jp/cityoffice/18/menu03/h/kanken/kanken-top.htm) 最近の上位ヒットは、

- ノロウイルス
- リアルタイム-PCR
- トリインフルエンザ
- カタラーゼ検査法
- 硫酸ピッチ

その他に、子供の理科嫌いをなくすため、小学5、6年生を対象とした夏休み親子科学実験教室を開催している。

(2) 研修・技術指導

当研究所では、以下のJICA関連研修の他、神戸市や他都市からの研修や神戸大学医学部学生の研修を受け入れている。また、民間企業からの研修生も、有料で受け入れている。

- 食品の安全性確保コース
- 食品微生物検査技術コース
- マイコトキシン検査技術コース
- インドネシア国別特設環境中微量有害化学物質分析コース

(3) 主な研究テーマ

研究テーマもホームページに掲載しているので、詳細はそちらをご覧ください。

- 感染症・食中毒の疫学的解析
- 動物インフルエンザのウイルス学的サーベイランス

- LAMP 法を用いたムンプスの病態解析
- 多剤耐性結核菌迅速診断法の開発
- ネパールの感染症に関する研究
- ヒメイエバエ科の系統分類学
- 残留農薬多成分迅速分析法の開発
- 食品・環境中の毒劇物微量有害物質の迅速同定法
- アレルギー食品検査の簡便法の開発
- 高濃度光化学オキシダント生成の原因究明
- 化学物質環境汚染実態調査
- 埋立処分地への降水の水文学的研究

(4) 検査実績

研究所全体の平成 16 年度実績は、検査件数で 29,361 件、手数料収入で 118,914 千円である。この他

に環境化学部を中心に受託研究収入があり、総収入は 170,029 千円で、人件費を除く総支出 186,553 千円にほぼ匹敵する。

(5) 今後の展開

当研究所は、概ね月 1 回、環保研セミナーを開催し、研究員の資質の向上を図っているところであるが、今後研究所の期待される機能として健康危機管理時の的確な対応が求められている。そのため、平成 17 年度より自主研究として「BC テロ対策自主研修」を開始している。また、「近畿ブロック地方衛生研究所の健康危機管理における連携と協力」に関する協定にも、積極的に参画することとしている。

